
戦場の野良犬達

天使

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

戦場の野良犬達

【Nコード】

N8072X

【作者名】

天使

【あらすじ】

時は西暦2175年

2170年に、第三次世界大戦が勃発。

原型を努めていない世界で、戦争という名の混沌を消すために、平和を取り戻すために、今、不器用な野良犬たちが立ち上がる…

第一話 プロローグ(前書き)

駄文ですが、お付き合いいただけるならば幸いです。

第一話 プロローグ

あなたは何のために戦いますか？

祖国のため？平和のため？家族のため？出世のため？笑顔のため？

これは、戦いでしか自分たちを証明できない不器用な一戦士達（男たち）の物語である。

信じられるのは、仲間

その仲間と笑い、泣き、楽しみ、勝つ

そういう男たちの…そういう野良犬たちの…物語である…

時は、西暦2076年

世界は、金、言葉、権力など無意味な、武力の…戦争の時代へと足を進めていた

2070年、第三次世界大戦勃発

今回の大戦もまた、小さな弾丸一発によって始まったのだ

その事件により戦争の再開。世界各国で争いは広がり、争いが争いを呼ぶ、阿鼻叫喚な状態へと陥った。

武力に長けている国によるじゅうたん爆撃によるダメージは、留まることがすることはなく、どこに何の国があったのかは、もう誰も知ることができない。

そんな地獄を生き残ろうと、また、緑の大地で走り回り平和な世を取り戻したいと願うものもいたが、今ではもう数えられるぐらいの少数なものとなってしまった。今の世界は、国の侵略などではなく、ただの殺戮を、戦争を、相手を殺すことを楽しんでいるからだ。そんな状況で平和を取り戻したと叫ぶ何人かが現れたが、一週間でもたずに壊滅

また戦争が続くのだ

そんな中、また一人

平和を取り戻そうと考えている若者が現れるのだ。後に彼は、いや
彼らは…後の時代に語り継がれていくのだろう

元、北アメリカ大陸 北部

力をもたない人々が集まる住人街の大通りを、轟音を立てながら装甲トラックが道を作るように前進していた。

中には、12、3人の男たちが腰を掛けていた。
全員が全員、身を武装して片手には銃器を持って談笑や銃の自慢などをしている。

こいつらは全員、戦場で捨て駒として扱われるだけの元一般人だからだ。誰もが、この世の中を良いことに人を撃つてみたい、戦場へ行ってみたいと思う阿呆な輩が増えるのだ

そんな中、ひとりの黒人男性が長椅子の端に座るまだ若い男に話しかけた。

「よう若いの。お前もこれからどっかの誰かさん目掛けて銃をぶっぱなしに行くのかい？」

黒人の男はニヤけながら若い男に絡んでいた。

「いやあ、いい時代になったもんだぜえ。俺ら一般人でも、こうやって実弾を使って戦うことができるんだからよ？」

自分の銃を見せつけるように叩き、

「俺、前は自動車整備工場で働いてたんだぜ？そんな俺がつてわけよ。前々からこんな銃を野郎のケツにお見舞いしてやりたかったんだよ」

ハッハッと笑いながら喋り続ける黒人に対して、話を聞いていただけの若い男は、突然立ち上がり、黒人を睨みつけ、言い放った

「おい貴様。今回が初の戦場か？」

男の言葉に戸惑いながらも、黒人の男は「あ、ああ……」とだけ返事をした。

「だったら言わせてもらおうぞ。戦場を甘く見るな。

あの地に降り立った瞬間、楽しみながらなど思っていると即座に死ぬぞ。

遊び半分で戦争に参加されても足でまといで邪魔になるだけだ！」

気づけば、黒人の男の他、乗車している男たち全員が注目していた

「銃を撃ちたいだけだと言うのなら、どっかそこらへんで死体に群がってるカラスでも撃ってる。実戦経験のない奴ならその死体でも構わないだろうな」

その場でワイワイと喋っていた男たちは、一瞬にして静まりかえってしまった

そのまま若い男はまた腰掛けると、俯きながら一定の呼吸を繰り返していた

元アメリカ第七地区

そこに先程の輸送トラックは止まり、全員がゾロゾロと降りていった

その中の若い男も、早々に降りると、放送マイクらしきものが置いてあるテントまで歩いて行き、荷物を置いてあったテーブルの上に置いた

「おい、そのメガネ。ここの指揮官を呼べ」

イスに腰掛けていたメガネの男は、若い男を一瞥すると、眉間にシワを寄せながら聞いた

「あなた……名前は？」

「アレン」

若い男、アレンはそう言った

「アレン・ノイシュ少尉だ、そう伝える」

この男の存在によって、このあとの世は大きく変わっていくのだ。
決して表舞台には立たないが、確かな成績を残していく、野良犬だ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8072x/>

戦場の野良犬達

2011年10月22日04時16分発行